

「地域を愛し、自分で考え 自分で行動する子ども」を育てる コミュニティ・スクール 通信

令和4年度 第5号 10月28日

日の里学園コーディネーター 北岡 隆博



8年生、地域の要望に応じてベンチを作成、贈呈

中学8年生は、「誰もが住みよい日の里」にするために、9月から総合的な学習の時間で、地域のお年寄りの方がゆっくり休憩できるベンチを4台作りしました。設計、製作、塗装などの指導を「ひのさと48」DIY工房の田中さんにしていただき、工具も地域の方からお借りしました。また、地域の方に出していただいた品物でフリーマーケットを行ってベンチの資金を作りました。このように「地域総がかりの温かい思い」が集まってベンチが完成しました。10月14日（金）に地域の代表の方を招いて「ベンチ贈呈式」を行いました。現在、そのベンチは2丁目公園、中学校へ続く坂道の途中（1丁目大和さん宅玄関前）、日の里地域包括支援センター前、8丁目公民館に設置されています。中学生手作りの温かみのあるベンチです。どうぞお気軽に座っておくつろぎください。



6年生、修学旅行前の平和学習 地域の方の戦争体験を聞く

日の里学園の東小と西小の6年生は、11月1～2日に長崎に修学旅行に行きます。長崎では原爆について学んだり、東小と西小の児童が混合班で市内を回るフィールドワークを行ったりします。

その修学旅行の事前学習として、10月25日（火）に戦争の実体験を聞く平和学習を東小と西小で行いました。体験を話していただいたのは日の里1丁目にお住いの力丸義一さん（96歳）です。力丸さんは17歳の時に鹿児島海軍航空隊予科練に入り厳しい訓練を受けました。飛行訓練中の飛行機のエンジントラブルで機体は大破し、大けがをしたものの九死に一生を得たこともありました。8月6日の広島への原爆投下の日は、直前まで広島駅で神戸に向かう列車内にいて足止めされていました。投下の数時間前に列車が動き、被爆の難を逃れました。戦後は復員船の乗組員として、ラバウル、ニューギニアなどから疲れ果てた復員者8,000人余りを帰国させたそうです。

力丸さんから貴重な戦争時の体験談を聞き、その映像を見た6年生たちは、戦時中の生活の厳しさと今の平和の尊さを感じたようでした。

なお、この平和学習を実施するにあたり、1丁目シニアクラブの柿永正紀さん、若松正人さんにご支援をいただきました。ありがとうございました。

